

直売向け露地切り花への育苗箱栽培法の実証展示

農業技術センター足柄地区事務所

実施期間：令和6～7年

課題・目的

■8月盆向け切り花として、アスターは需要が高いが土壌病害に弱く連作が難しい。また、ケイトウは施肥量に敏感に反応するため、養分過多による茎の帯化や、花冠径のばらつきが大きく、品質および可販率が低下しやすい。

■平成25年度に生産技術部で開発された「育苗箱栽培法」は、肥効調節型肥料を混合した用土を用い、育苗箱で栽培を行う方法で、簡易に栽培ができ、①連作障害の回避、②肥効調節、③収穫時期の調整が可能である。

■アスター、ケイトウにおいて「育苗箱栽培法」を普及するため、実用性について実証展示をする。

活動内容

■アスター(R6)およびケイトウ(R7)で育苗箱栽培法の現地実証ほにおいて、アスターおよびケイトウともに障害の発生もなく、高品質な切り花を目的の8月盆に合わせて出荷できることを展示した。

■可販率はアスター、ケイトウともに9割以上となり、生産ロスの少ない栽培であることを実証した。

■管内で夏季の収入安定化のため、管内施設鉢物生産者(10名)に対して、個別および部会巡回指導の際に本栽培法について説明して導入を勧めた。



育苗箱栽培(左:アスター、右:ケイトウ)



お盆の直売所の様子

具体的な成果

■育苗箱栽培の実証展示の過程で、一貫して栽培工程を生産者と実施することで、成果技術の習得の支援ができた。

■生産者からも「切り花の揃いもよく、品質の良いものが栽培することができた。出荷先の直売所からの引き合いも強かった。この方法で継続して生産していきたい。」との感想を得た。